

アジア共同学位開発プロジェクト 調査報告書

提出日：平成23年12月6日

報告者名：朴賢淑

○訪問先
韓国・全北大学
○訪問期間
平成23年11月17日（木）～11月22日（火）
○訪問者
朴賢淑 教育学研究科助教
○訪問の目的・経緯等
<p>来年度から共同学位開発の一環として、サマーセミナー実施を考えている。したがって、今後、留学生受け入れ体制を整備するにあたってどういった課題があるのかを探るため、韓国の留学生担当者や元留学生との話し合いをとおして情報収集を行うため。</p> <p>全北大学における留学生受け入れの現状と留学生短期プログラム実施状況について意見交換を行うため。</p>
○先方対応者
Huseon LEE 国際交流担当職員 Keeho YU 教授
○成果・反省点等
<ul style="list-style-type: none">・全北大学は2011年11月現在、1,157名の留学生が在籍しており、そのうち中国人が879名、日本人が4名、モンゴル人が129名であった。韓国も日本と同様にアジアからの留学生が多く占めていることから、今後、留学生受け入れシステムの整備において全北大学の事例は大いに参考になると思われる。・全北大学における留学生支援は国際交流部の外国人支援部署が担当し、8名のスタッフのうち4名が留学生支援を担当している。また、学部レベルでは指導教員が留学生相談日誌を週一回提出することにより、留学生の勉学に役立つ支援体制を整備しつつある。・留学生向けのオリエンテーションは、年1回開催されており、2部構成で行っている。第1部では、勉学や生活全般にわたっての説明を行っている。第2部では、韓国文化紹介をとおして、留学生が直接韓国文化に触れるプログラムを設けている。・日本人学生向けの短期プログラムは、主に日本語で行われているが、プログラムの中身をみると、韓国語授業、文化体験授業が設けられている。また、短期プログラムを履修した場合4学点が付与される。ここで短期プログラムの開催期間は2週間である。

- 留学生支援において、学生ボランティア（Goodwill Ambassadors）を活用しており、毎年 30 名（英語、日本語、中国語可能者）を選抜し、ボランティア活動は 1 年にわたって行っている。
- 今後も留学生に関する情報交換と協力を得られることが確認できた。